



上海の一等地にあったニセモノ市場は、6月30日夜に閉鎖された。閉鎖直後のゲートの前では警察が見張り、中に残っている客と、店をたたんだ売り子が出てくるのを待っていた



上:最終日には歩きづらいほどのぎわいを見せた
左:ソウコの中には、ニセ高級腕時計がずらりと並んでいた

ここは、繁栄する上海のまさに一等地。通称「ニセモノ市場」、つまり「襄陽路市場」は、大きなビルや高級ホテルやデパートが並ぶ一角にある。写真で分かるように、簡単な造りの小さな店がぎっしり。874店舗もあるのだという。

「3年もやれば、日本人、韓国人、香港人、台湾人、中国人かどうか、服装、髪形、歩き方とか雰囲気ですぐに分かるよ」。毎日のように市場の中かその周辺で客引きをし、ニセブランド品を売ることで、彼は多いときには月に1万円(1元は約15円)を稼ぐという。上海の大学の新卒者の月収が2000~3000元ほどであることを考えれば、かなりの額だ。

エルメス、ロレックスなど。高級ブランド品のニセモノの多くは、市場ではなく「ソウコ」にあるのだ。彼らは、これを本物として売っているわけではない。客もニセモノと分かって買っていく。値段を聞くと、例えばルイ・ヴィトンの小さめのバッグなら、3000円から5000円程度。実際に交渉してみると、5分の1くらいまでは下がる感じだった。

「知的財産権」保護の圧力

6月30日午後9時半。この瞬間に、こんなに活気のある「ニセモノ市場」が閉鎖された。いったいなせ……。それには、まず世界のニセモノ事情の説明が必要だ。バッグ、時計、財布、DVDはもちろん、車、ゴルフクラブ、たばこ、地図、洋服、ジーンズ、薬……。もはや、世の中に存在するすべての売れ筋商品にはニセモノがあるといってもいい。WC

上海名物「ニセモノ」市場の閉鎖

中国政府の思惑は?

ルイ・ヴィトン、エルメス、ロレックス——あらゆる高級ブランドのニセモノがそろそろ。中国・上海の観光名所でもあった「ニセモノ市場」こと「襄陽服飾礼品市場」(襄陽路市場)が6月末に閉鎖された。世界中から「知的財産権」の保護を求められた中国政府が、「ちゃんと取り締まっています」とアピールした形だ。しかし、本当に効果があるのかといえば……。

ルポライター 近藤雄生

CARRYING ON THE FUJIYA HOTEL TRADITION.

FUJIYA HOTEL

富士屋ホテル

〒250-0404 神奈川県足柄下郡箱根町宮ノ下359
TEL.0460-2-2211 FAX.0460-2-2210

KOFU FUJIYA HOTEL

甲府富士屋ホテル

〒400-0073 山梨県甲府市湯村3-2-30
TEL.055-253-8111 FAX.055-253-5200

FRUIT PARK FUJIYA HOTEL

フルーツパーク富士屋ホテル

〒405-0043 山梨県山梨市江曾原1388
TEL.0553-22-8811 FAX.0553-22-3988

YUMOTO FUJIYA HOTEL

湯本富士屋ホテル

〒250-0392 神奈川県足柄下郡箱根町湯本256-1
TEL.0460-5-6111 FAX.0460-5-6142

HAKONE HOTEL

箱根ホテル

〒250-0521 神奈川県足柄下郡箱根町箱根65
TEL.0460-3-6311 FAX.0460-3-6314

FUJI VIEW HOTEL

富士ビューホテル

〒401-0310 山梨県南都留郡富士河口湖町勝山511
TEL.0555-83-2211 FAX.0555-83-2128

YAESU FUJIYA HOTEL

八重洲富士屋ホテル

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-9-1
TEL.03-3273-2111 FAX.03-3273-2180

OSAKA FUJIYA HOTEL

大阪富士屋ホテル

〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋2-2-2
TEL.06-6211-5522 FAX.06-6213-5897

SENGOKU GOLF COURSE

仙石ゴルフコース

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原1237
TEL.0460-4-8511 FAX.0460-4-8513

KOKUSAI KOGYO GROUP

FUJIYA HOTEL CHAIN

<http://www.fujiyahotel.co.jp>

ニセモノ市場

〇(世界税関機構)によると、ニセモノ売買は世界の貿易取引の5〜7%に相当し、それによる損失は、2004年では5120億ドルに上るといわれる。

この巨大なニセモノ業界にあつて、中心的な役割を担っているとして世界中から非難されているのが、中国なのだ。そのニセモノ事情は確かに驚くべきものだ。ネットでの報道を探しただけでも、あるビルに設置された「上海三菱」のエレベーターがニセモノだった。

▼上海の浦東国際空港のプラダのフランチャイズ店でニセモノを売っていた

▼NECの会社組織をまるまる「偽造」し、製造、販売を行うニセモノ会社が見つかった

という具合で、ニセモノのレベルが違う。車のパーツのニセモノなどは、切断したり、化学的に解析したりする以外は区別がつかず、実際に使ってみた結果としてしかニセモノだと判別できないというのだ。その技術レベルは想像以上のものになっている。

そんな背景のなか、「知的財産権保護」を求める外国からの圧力が高まってきた。さらに、中国企業自身にとつてもニセモノが大きな脅威になってきたため、中国政府も取り締まりに本腰を入れねばと、いよいよ動き始めたという構図だ。



上:ブランド品のニセモノを売るソウコは、このような古びた建物の中にある
右:閉鎖翌日、市場の周囲には相変わらず引き寄せる若者たちがいた



別のソウコには、ルイ・ヴィトンのバック

実際、ニセモノの製造・販売に関与した人物・組織が捕まるといふニュースも最近よく目にするし、有名ブランドによる訴訟も相次いでいる。

象徴の一つとして中国が世界に広く宣伝しようとしているのが、襄陽路市場の閉鎖なのである。**場所を移動するだけ!**

閉鎖の翌日、市場に行ってみると、敷地全体が青い板で囲まれ、客の姿は全くなかった。その周りのゴミだらけの路上では、売り子たちが、商品を詰め込んだトランクの上に所在なげに座っていた。

その後、各店舗は、すぐそばの新しいビルの中に移転しただけで、結局、そこでまた堂々とニセモノは売られているのだ。

しかし、これで中国のニセモノ事情が改善するのかといえは、そんなに単純なことではなさそう。今回の取材で知り合った客引きたちは、こう言った。

「場所を移動するだけだよ」
すでに「移転候補地」が4か所ほど挙がっているのだという。中国のメディアが注目しているのも、市場がどこに移るのかという点なのだ。

先例もある。やはりニセモノ市場として知られた北京の秀水市場も昨年、閉鎖されたのだが、

人影が消えた市場の周辺には、新たに「保護知識産権(知的財産権を守ろう)」などと書かれた大きな横断幕がいくつも掲げられていた。

しかし、その目の前で、客引きの男たちは、憎めない笑顔と聞き慣れた日本語の単語で話しかけてきた。

「トケイ、カバン、ミルダケ、ヤスイヨ。ソウコ、キテキテ」

中央政府は知的財産権保護に本気で力を入れようとしているが、地方政府がそれに乗っていないという声もある。少なくとも、上海市が本気で取り締まりを考えているようにはみえないことは、この「ソウコ」の存在だけでも簡単に分かる。その理由の一つには、ニセモノ市場が大きな雇用を生み出していることが挙げられるが、業界と警察との間に何か関係があるのではないかと勘ぐりたくもなる。

YW